

備風

BI

FU

2019・3月

岡山県環境整備事業協同組合



VOL.51

掲示板（事業活動）

西日本豪雨被害災害支援

倉敷市真備地区

平成30年西日本豪雨による被害は、岡山県内に広範囲な被害をもたらしたため、倉敷市真備地区だけでなく、岡山市や総社市、高梁市など県南の多くの地域におよんだ。各地区の組合員は災害発生当日より、それぞれの自治体と連携し、住民生活への影響を最小限に留めるために、尽力していたが、さらに、環境省より、全国環境連を通じ、真備地区の災害廃棄物処理について、支援要請があった。県内組合員はすでに手一杯であったため、難しい判断を迫られることになったが、全国からの応援を依頼することにより、可能と判断し支援活動を行うことを決定、一日も早い復旧を望む地元住民への思いに応えることとした。



組合は、重機や運搬車両の手配、倉敷市との調整に追われつつ、全国各地より訪れる支援者の送迎や宿泊手配など、後方支援も含めた多岐にわたる対応に全力で当たり、着々と実績を積み重ねることができた。

支援活動は、7月中旬から始まり、当初は、幹線道路沿いや大型店舗の駐車場に山積みされた災害ゴミの撤去で、徐々に大規模なものから、公民館や集落内部の公園、空き地など小規模なものまで、ほぼ、町内すべての集積場所のゴミに対応することができた。これも、全国各地から100人態勢で集結した組合員・社員やそれを支える組合員および各県組合の皆様のお陰であり、感謝申し上げるとともに業界が団結していることが示された。なお、支援活動は最終的に1カ月あまりに及び、運搬作業は延べ1万回にわたった。

妹尾 芳訓

平成30年度 第16回 全国環境連全国大会

〔～共に生きる～水でつなげる地球共生社会への挑戦〕

平成30年10月19日 パレスホテル東京

オープニング映像の後、全国環境連会員の物故者への黙祷が行われ、乗藤慎吾副会長が開会の辞を述べられた。続いて、鳥越澄夫会長が創立15周年の記念大会となる今大会にあたり、先代の思いを忘れることなく、一層の努力と英知を結集して飛躍をすることを期待するとともに、今大会の開催にご尽力いただいたご来賓と参加者の皆様に感謝のことばを述べられた。

講演会では環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長 名倉良雄氏を講師にお招きし「廃棄物・リサイクル対策の現状と最近の動向について」と題して講演が行われた。災害廃棄物対策や通常国会における廃棄物処理法改正について等々5つの題目が採り上げられ、最新の情報に基づく実のある講演となった。



次に、NPO 法人共存の森ネットワーク理事長 農学博士 澁澤寿一先生から「里山から見える未来社会～経済資本主義から自然資本主義への道のり」と題してご講演いただき、地方創生には社会創生が重要であるということを教えていただいた。

今大会は創立15周年記念大会ということで、記念事業として青年部が中心となり環境省、外務省と調整し、海外支援事業を推し進めてきた。支援先であるミャンマー連邦共和国のトゥレイン・タン・ズイン閣下はわれわれの支援活動に感謝の意を述べられた。

懇親会では、河村建夫環境整備議員連盟会長、山下貴司法務大臣ほか来賓の方々からご挨拶を賜り、和やかな雰囲気の中で懇親を深め、団体旗は次回開催県の鹿児島県に引き継がれた。

益本 麻衣

岡山県環境整備事業協同組合及び環整連政治連盟岡山県支部合同新年会

平成31年2月1日 ANA クラウンプラザホテル岡山

岡山県環境整備事業協同組合及び環整連政治連盟岡山県支部の合同新年会が組合員及び各団体関係者75名参加のもと、寺尾邦弘常務理事の司会進行により開催されました。開会にあたり乗藤慎吾理事長より、7月に発生した西日本豪雨災害に対する災害支援のお礼と、組合員一同の結束の必要性のお話がありました。

続いて、来賓の方々を代表して、一般社団法人岡山県浄化槽団体協議会長 八田富夫様から現在の浄化槽と下水道の不平等な金額設定などのお話などがありました。

次に、別府洋吾専務理事より今後の主な行事予定についての報告があり、乾杯のご発声を公益財団法人岡山県健康づくり財団専務理事 徳田浩一様から賜り、懇親会が始まりました。

親睦が深まり、最後に牧生夫副理事長の閉会の挨拶で会は盛会裏に、閉会しました。

竹内 久博



赤磐市におけるコンセッションに対する青年部研修会

平成31年2月14日 赤磐市 赤磐市役所

公共施設等の運営権を民間事業者に委託するコンセッション方式、従来は空港や高速道路などの施設が中心でしたが、近年規制緩和により浜松市に代表されるように下水道事業などでも利用され始めています。

また、岡山県においては赤磐市が下水道のコンセッション導入に向けて動いているということで青年部の研修として赤磐市市役所に伺いました。

研修会では、まず、改めてコンセッション・PFIについての基礎知識を学びました。

続いて、赤磐市長 友實武則様より赤磐市の現状となぜコンセッションを取り入れようとしているのかの説明がありました。市長は「民間のノウハウを生かすことで下水道管理のコストダウンができるのではないかと、また配置転換がある公務員より確かな技術の継承ができ、それが住民サービスにつながると考えている」と説明され、その後、青年部員一人一人と質疑応答をしていただきました。

最後に赤磐市の担当者より現状の進捗状況として、赤磐市は人口約4万5千人規模でありコンセッションを取り入れる自治体の中では規模が小さいため、実際に可能かどうか実態調査やアンケートをしている段階などの説明があり、閉会しました。

次代を担う青年部員に自覚を促す実りある研修会となりました。

繩手 國雄





平成31年 3月11日	全国環境連事務局長会議 (東京)
3月13日	全国環境連第6回理事会 (東京)
3月19日	全国環境連中国地区協議会第6回理事会 (岡山市)
3月26日	組合第6回理事会・常任会 (組合事務所)
5月7日	組合監査 (組合事務所)
5月10日	組合第1回理事会・常任会 (組合事務所)
5月16日	全国環境連第1回理事会 (東京)
5月27日	組合通常総会 (岡山市)
6月4日	全国環境連中国地区協議会第1回理事会 (岡山市)
6月12日	全国環境連通常総会 (東京)
6月21日	全国環境連中国地区協議会通常総会・第2回理事会 (鳥取県米子市)
7月17日	全国環境連第2回理事会 (東京)
7月24日	組合第2回理事会・常任会 (組合事務所)
8月7日	全国環境連中国地区協議会第3回理事会 (岡山市)



甲元 平

水を使うときは、水道の蛇口をひねることが常識である。しかし、ひとたび災害が起これば水道水の供給がストップすることもある。過去の災害におけるライフライン復旧までにかかった日数は、電気や電話に比べ水道の復旧には時間がかかっているのが現状である。

そこで私たちが普段からできる方法としては、水の備蓄ではないだろうか。人間が生きるためには、1日3リットルの飲料水が必要とされている。主な備蓄方法としては、ペットボトルのミネラルウォーターがあげられる。近年はさまざまなメーカーから賞味期限が5年～10年もつ備蓄用のミネラルウォーターが販売されている。他にはポリ容器に水を備蓄しておくという方法もある。ポリ容器は給水を受ける際にも役に立つが、大きすぎると持ち運びが不便になるため10リットル程度の大きさが適当である。なお、3日間安全な飲み水としての使用を考えると、保存期間の目安が3日とされている水道水を毎日汲み替える方法もあり汲み替えた水は雑用水として使用することもできる。災害はいつ起こるかかわからないが、いつ起こってもおかしくない。そして、その準備は起こってからでは遅い。蛇口をひねれば水が出るという常識の一方で、有事のための防災用水の備蓄もまた、常識にしておく必要があるのではないだろうか。

活 動 報 告

30. 9. 7 第2回全国環境連研究・事例発表会(長野県軽井沢町)	12. 4 全国環境連中国地区協議会第4回理事会 (岡山市)
9. 18 全国環境連第3回理事会 (東京都)	12. 11 組合理事会・常任会 (組合会議室)
9. 25 組合理事会・常任会 (組合会議室)	12. 17 事業部西日本高速道路(株)中国支社あいさつ (広島市)
10. 1 第32回「浄化槽の日」(東京)	12. 17 全国環境連年末あいさつ (東京)
10. 9,10 第32回全国浄化槽技術研究集会 (名古屋市)	31. 1. 7 新年あいさつ (岡山県知事、岡山市長)
10. 19 全国環境連臨時理事会 (東京都)	1. 9 日本廃棄物団体連合会新年賀詞会 (東京都)
10. 19 全国環境連第16回全国大会 (東京都)	1. 11 新年あいさつ (倉敷市長)
11. 4 児島湖流域清掃大作戦	1. 16 全国環境連第5回理事会・新春懇談会 (東京)
11. 9 鹿児島県第26回浄化槽維持管理技術研修会 (鹿児島市)	1. 23 全国環境中国地区協議会第5回理事会 (岡山市)
11. 15 自由民主党岡山県議団へ浄化槽関係の要望書提出	2. 1 組合理事会・常任会・新年会 (岡山市)
11. 14,15 岡山県貯水槽清掃作業従事者研修会(組合研修室)	2. 7 全国環境連中国地区協議会青年部研修会 (島根県松江市)
11. 28 全国環境連政府に対する要望書提出	2. 15 岡山県合併処理浄化槽普及促進協議会研修会(岡山市)
11. 29 第15回全国環境連青年部研修会 (岡山市)	
11. 30 全国環境連第4回理事会 (鳥取市)	

編集後記

昨年、西日本を襲った「平成30年7月豪雨」の復旧、復興作業もそれぞれの市町村ごとに進行しておりますが、完全復旧に向け、国、岡山県等と連携を取り、進行を早めて対応して頂きたいと思っております。

さて、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会も創立15周年を迎えることが出来ました。全国大会 大会宣言にもありましたが、初心を忘れず、強固な団結と協調の下で、ユーザーや社会に対する責任と業の発展に貢献すべく、改めて基本理念を確認し、我々の目的、目標の達成に向けて、積極的に役割を果たしていく必要があると思っております。

BIFU

Vol.51

発行日	平成31年 3月25日
発行	岡山県環境整備事業協同組合
編集	機関紙担当理事 別府 洋吾
住所	岡山市南区山田291-2
tel/fax	086-282-6455/086-282-6685
E-mail	okakan01@poem.ocn.ne.jp
印刷	(有)エーピープランニング